

次第

■ 1. 開会

■ 2. 議題

(1) 文化振興計画の進捗状況について

・ 庁内における取組み

- ・ 基本目標、資料Dに基づき説明。

令和4年度は全 88 事業、このうち新型コロナウイルス感染症の影響により中止になった事業は 4 事業。

新規事業は 5 事業、学校教育課の「児童生徒育成支援事業」と、文化国際課の「塩田千春展」、企画課の「きしわだ地元川柳 2022」、広報広聴課の「子どもたちと作る岸和田市の魅力ガイドブック」、水とみどり課の「ばらサミット in きしわだ 2022」であり、いずれも岸和田市市制施行 100 周年記念事業として行ったものである。

広報広聴課の「子どもたちと作る岸和田市の魅力ガイドブック」を除いて、令和4年度のみ事業となっている。

- ・ 資料2に基づき説明。

基本目標2「輪を広げる」が38%で最多、細目としては、基本目標2-1「発表・鑑賞機会の充実」が全20事業と最多。

令和4年度の事業費は381,002,000円（一部指定管理事業費も含む）。

・ 文化施設（浪切ホール・自泉会館・マドカホール）3館の取組み

- ・ 資料A-1、A-2、B、Cに基づき説明。

浪切ホールは全40事業のうち4事業、マドカホールは全20事業のうち2事業が新型コロナウイルス感染症の影響により延期又は中止。自泉会館は全30事業を実施。

・ 文化団体による取組み

- ・ 資料3に基づき説明。
- ・ 岸和田市文化協会の韓国ソウル特別市永昇登浦区との文化交流を除き、事業を実施。

(会 長) 文化施設3館の取り組みのなかで、来場者満足度とあるが、評価の根拠は何か。

(事務局) すべての事業でアンケートをとっているわけではないため、感覚的なものがあるかと思う。お客様の反応を見て、好評を得たと感じればA評価、満足できなかった声が多ければB評価としているかと思う。

(委員) 自泉会館の管理者として答えると、資料Bの1枚目は、自泉会館を多くの人に見てもらいたいという思いから実施している事業である。見学者と、実際に色々なお話をし、反応等をまとめたものから評価している。

2枚目以降の事業については、各事業実施にあたり、入場者数等をリサーチした上で、目標値を設定している。それを上回ればS評価、想定内であればA評価、下回ればB評価としている。入場者数については、地元が他府県となると集客力に劣るという課題もある。また、アンケート回収率は70%以上あるため、自己評価のみではなく、これらに基づいた評価を行っている。

自泉会館は、事業の実施規模がそれほど大きくないため、お客様の声を聞きやすい状況にある。

(委員) 岸和田市で絵画教室を実施しているのだが、2点確認したい。

1点目、市展を行っていると思うが情報は入りにくいように思う。出品先を探している人もいるのだが、どのような方法で知ることができるのか。

2点目、マドカホールでは、秋頃に子どものアート展を行っていたかと思うが、現在は実施していないのか。

(事務局) 市展についてだが、毎年春(5～6月末頃)に6部門の公募展として実施している。「広報きしわだ」にて作品募集と市展開催に関する記事を、時期を分け2回掲載している。また、文化事業協会発行の情報誌「ぬーべるふおんてーぬ」、浪切ホール発行の情報誌「ナミナミ」にも記事を掲載している。開催が近づくと、市内の公共施設等にポスター掲示やハガキの配架を依頼している。

市展については、出品者をいかに増やしていくかということに苦慮しており、当課としても、是非色々な人に知ってもらいたいと考えている。高校の美術部や大学等にも作品募集案内は送付しているが、他に良い配布先があればご教示いただきたい。

(委員) 市内の絵画教室に送るのは、展示する場所を探しているケースも多いため、効果があるかと思う。

(委員) 子どものアート展は、秋頃にマドカホールで行っているのであれば、文化祭のものではないか。主催者の都合により、数年前より実施されていない。

(副会長) 資料Aは自主事業のみか。

浪切ホールでは、貸館業務も行っていると思うが、それに関する資料はない

のか。

(事務局) 貸館業務の資料は、本日の会議資料として配布していない。

傾向としては、令和2年以降新型コロナウイルスの影響を受け、貸館件数も激減した。令和4年度は新型コロナウイルスから回復傾向であったといえ、流行した時期も何度かあり、キャンセルが多発し、苦戦した。今年に入り、新型コロナウイルスは5類に移行したが、元通りには遠い状況にある。

浪切ホールでは、企業による貸館利用も多かったのだが、コロナ禍で、リモート会議が広まり、会議室の利用が不要となった。また、これまで大ホールで連続公演を行っていた団体も離れてしまい、貸館業務は苦戦している。

(副会長) こうした資料を活かして、反省点、改善点を見出し、全体評価する機会になればよい。また、広く市民の意見を聞くディスカッションも良いと思う。この振興計画を総括する機会にしてほしい。さすれば新たな道もひらけるのではないか。

(会 長) この調査結果を見て、実際に活用しているのか。

(委 員) 文化事業協会では、これらの資料を常務理事会に提出し、今後の運営についての検討材料としている。

これを指標として、来場者からの評価として捉え、時には、反省材料としている。また、報告書を提出することにより、事業の評価認定についても、管理者である岸和田市とも共有できていると捉えている。

(事務局) 指定管理者には、業報告書の提出を義務付けている。指定管理者が事業の結果を報告することによって、反省、改善点などの資料になると考えている。この資料結果を活用しきれていないことは反省すべき点。

(会 長) 資料提出により、反省材料としての意義はある。

(委 員) 基本目標Ⅰ-5「子どもたちの文化活動への育成・支援」に、具体的なプランはあるのか。子ども達が楽器の生演奏を見る機会を作って欲しい。それが、子ども達の将来に影響を与えると思う。

(事務局) すべての事業を当課が関わっているわけではなく、学校独自で行っている事業があることは承知しているが、詳細までは把握していない。

当課では現在、アウトリーチ事業として主に就学前の幼児を対象に行っているが、市内すべての幼稚園・保育所に実施できていないのが実情。

今後、次世代を担う子どもに向けて、もっと創出していきたいと考えている。

現在、新たなアウトリーチ事業を計画中。

（２）文化 花 咲かそう推進プランの検証について

- ・資料４に基づき説明。
- ・平成 27 年度～令和 4 年度までの庁内各課が実施した事業の評価について、令和元年度までは A 評価が 85.5～95.7%であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和 2 年度は A 評価が激減、B・C 評価、評価が困難な空白が目立つ結果となった。感染症対策を講じた上での事業再開を行った令和 3 年度以降は、回復が見られるものの、以前のように戻っていない。
また、基本目標・細目ごとの検証として、令和 2 年度・3 年度は新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったこと、実現していない取り組みや評価もれをしているケースがあることがわかった
- ・文化施設 3 館の検証として、浪切ホールでは、年間の事業数の大半を、役割「ア プロによる優れた舞台芸術の鑑賞」が占める。しかし、「キ 和歌山大学サテライトとの連携」等実現できていないものもある。自泉会館では、コロナ禍で行った事業につき、制約が多い中でも事業を実施したということそのものを評価して S 評価としている。クラシック音楽の公演が大半を占めるが、指定管理者の創意工夫による各種文化・芸術に取り組んでいる。マドカホールでは、新規の取り組みが少なく、定番のものが大半となりマンネリ化している状況である。「オ 障害者・児のための作品展の開催を支援」では、会場がマドカホールとなっているが、支援の程度が少なく、再考する必要がある。また、特に、子どもへの文化・芸術に触れる機会の提供をより創出していく必要がある。
- ・これらの検証を、次期計画の中にも盛り込み、実現を目指していくものとする。

（委 員）あるアーティストから「これまで教育委員会の事業で岸和田市に来ていたが、数年前からやめた。近隣自治体と比べ、講師料が低いから。」と、はっきり言われた。それは、文化国際課と教育委員会、他部署との連携が取れていないからだと思う。

子どもが大切と言いながら、大切なものを大切なところに届ける努力、工夫、アーティストバンクの利用など他団体に協力を要請できる体制が必要。

（委 員）アーティストも自身の勉強のために、謝礼の有無に関係なく参加している例

もある。

(会 長) 教育委員会に音楽や文学に詳しい方がいたら少しは違ってくるのではないか。

(副会長) 岸和田市教育委員会には、そのような専門的な知識を持つ人材はいるのか。

(事務局) 各学校の授業内容等を指導している指導主事はあるが、専門的な指導として外部からアーティストを招いての活動は盛んではないように思う。

過去に、浪切ホールの指定管理者が取り組んだ事があり、好評を得たが、学校側の手続きが煩雑で、学校の負担が大きく継続とはいかなかった。現在は各学校の取り組みなどの実態調査をしていないが、次年度以降、調査を行うことも検討していけたらと思う。教育委員会との連携を進めていきたい。

(会 長) ぜひとも調査して欲しい。

以前、学校出張公演の公演調査をしたが、都市部より山間部の方が公演に熱心に取り組んでいる。「本物」を見る機会が少ないゆえに「本物」を届ける事を大事にしていると感じた。公演を行うための事務手続きが煩雑なのが実状であり、この方面に経験がある人材がいるかいないかも事業の実施に大きな違いがでる要因ではあるが、「本物」を届けたいとの思いを持っている人材を教育現場に配置し、両者を結びつける努力は必要。

(副会長) これは「芸術体験教育」というような事業名で、各地で行われていると思う。

教育現場とアーティストなどの専門家をどう繋げるか、岸和田市は特に子どもを中心にと考えているので、ぜひともマネジメント体制を整えていってほしい。

(委 員) 10 年以上前の話であるが、高校生とベルリンフィルとの交流があって貴重な体験だったと印象に残っている。子どもの成長、経験、感性に大きな影響を与えた。

(会 長) 何かきっかけがあれば、次に進める可能性が出てくる。連携をしていって欲しい。

(3) (仮称) 文化 花 咲かそう推進プラン 第2期岸和田市文化振興計画 (素案)
の庁内手続きについて

- ・資料5、「文化創造ビジョン・岸和田 ～ 文化 花 咲かそう・岸和田～」、資料6に基づき説明。

前回第4回審議会（4月開催）以降の変更点を説明。

名称の変更、P.27「アンケート調査から見える本市の傾向」とP.30『「文化 花 咲かそう推進プラン」の検証』の追加、P.62「C 文化施設3館の事業評価」の追加、その他、新型コロナウイルス感染症の第5類移行を受けた文言修正等。

10月1日（日）～31日（火）に意見公募（パブリックコメント）を実施。広報きしわだ10月号、HPに記事を掲載予定。文化国際課（マドカホール）の他、市役所広報広聴課、市民センター、山滝支所、浪切ホール、自泉会館に備え付け予定。

(委員) 「岸和田市立文化会館」と愛称である「マドカホール」という名前が混在しているが、定着してきているので、そろそろ統一してはどうか。

また、浜田青陵賞という、考古学では非常に権威ある賞であるが、市民に理解されているのか、市民に対しての反響が乖離しているようなことはないのか。

(事務局) 岸和田市民には浜田青陵の功績など広く周知されていないと感じる。

(委員) 浜田青陵賞について、私自身は何度も講演を聞いている。とても意義ある講演内容であるので、皆さんにも聞いて欲しい。

(会長) 浜田青陵賞について、ぜひ周知を図ってください。

計画の作成がゴールではなくスタート。その協力を私たちは惜しまない。

(4) 今年度の文化振興事業について

- ・資料7に基づき説明。

■ 3. その他

(委員) パブリックコメントの予定はどうなっているのか。

(事務局) 来月10月1日から10月31日まで実施をし、ホームページと広報きしわだ

10月号にて周知を行う。

文化会館3館、広報広聴課、市内の各市民センター5か所、山滝支所に冊子を配架し、ホームページでも募集を行う。

(委員) 岸和田市少年少女合唱団がフェスティバルホール「カルミナ・ブラーナ」に参加したのだが、少し配慮の要る団員が、大きな緊張の中で歌い抜き、感動体験で涙を流していた。

私たちが伝えたかったことは、「これだったのだ。」と、改めて感じた。

目の前のことをコツコツと積み上げていくことの大切さ、それが役目なのだと、責務を感じた。

(副会長) その公演を拝見したが、今までに体験したことのないような素晴らしい感動であった。

子ども達の成長を目の当たりにした。見るだけでなく、体験するという芸術体験の意義であった。

(会長) 芸術体験の大切さを、芸術の持つ力の素晴らしさと思う。

皆様、色々なお立場からご自身の経験も踏まえて様々なご意見をいただき、ありがとうございました。

連絡事項

- ・ 次回の審議会は11月に予定。日程調整後に案内する。
- ・ 委員報酬は10月末に口座振込み。

■ 4. 閉会